令和6年度 第2回瀬戸市子ども・子育て会議 議事録

日程:令和6年7月26日(金) 時間:午前10時から正午まで

会場:瀬戸市役所 北庁舎5階 全員協議会室

委員:参加者11名、欠席者1名

委員半数以上出席で会議成立

< 1. 副市長あいさつ>

本日は大変お忙しい中、また外は本当に暑い中、体調管理が難しい今日この頃でございますけども、皆様ご出席をいただきありがとうございます。

本市の子ども総合計画に関しましては、今年度末をもって一旦今進行しておりますものが満期を迎えます。この会議におきましては、皆様方のご協力をいただきながら、次に進める新たな次期計画を今後作っていく必要があります。第1回目のときには、昨年12月に子ども自身、保護者の方々からとったアンケートの内容を皆様とご検討いただき、その中から多くの課題を抽出していただきました。今回は次期計画の骨子案を作成するにあたりまして、課題等々が出ている中で、本日は皆様にその内容を、専門的な見地から忌憚のないご意見をいただき、しっかりしたものを作っていきたいと思っております。

暑い中ではございますけども、審議、また次期計画に対するご意見等をいただきながら、 今回もしっかりやっていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

<2. 協議事項>

事務局より、第2次瀬戸市子ども総合計画の骨子案について説明

(委員)

- ●第2次計画を見て、以下の点から、分かりやすく、浸透しやすいものであると感銘を受けた。
- ・現在の第1次計画を振り返るうえで、課題を抽出していること。
- ・【第3章.計画の基本的な考え方】では、各々の異なるバックグラウンドや価値観をまとめて、同じディレクションに向かうためには理念が大事であることを踏まえ、子どもをバイオサイコソーシャルモデルとして捉えて、「子どもの最善の利益が優先して考慮されること」という理念が示されていること。
- ・【第4章.施策の推進】では、これまでやってきたことを継続しつつ、1人も取り残しのないように、施策を専門家や市民と共に作っていくというところがあること。

- ・【第6章.計画の推進】では、数値目標が置いてあることで、みんなの価値観やマインドセット、心構えを主軸とした施策になっていること。
- ●行政というのはリーダーであり、リーダーシップを発揮して、全体のいろんなバックグラウンドを持つ人のいろんなニーズを拾い上げるにあたり、私たちのまちはどんなまちなのか、現状を自己客観視することが大事だと思う。

(委員)

●【第2章.第1次計画の進捗評価】で第1次計画の進捗評価をしているが、第2次計画では、第1次計画と同じ評価項目を使っていくのか、新たな評価項目も加えていくのか。

(事務局)

●数値目標については、第1次計画を基本的に継続することを考えている。第1次計画の現 状や課題を踏まえて、見直しをしながら、新しい項目を加えることや必要のない項目を削除 することなど、精査をしていきたいと考えているが、大きくは変えないと考えている。

(委員)

●地域や子ども会などの現場で立って見てみると、第1次計画がなかなか周知されていない。この計画をまた新たに作るというところで、内々的にはきめ細やかに体系化されて、展開されていくと思うが、特に地域や市民、学校にしっかりと周知していった方がいいと思う。

(委員)

●第1次計画の【第2.施策の展開 第3章.子ども・若者と子育てを応援する社会基盤の構築】という項目は、第2次計画のどこに当たるのか。第2次計画の【第3章.計画の基本的な考え方 3.基本目標 施策の体系】には「子どもの権利に関する啓発」という項目が出てきているが、子どもの権利だけではなく、計画自体の啓発がまだできていないのではないか。また、瀬戸市全体でこの取り組みをやっていくという機運がまだ高まってないのではないか。

(委員)

●【第4章.施策の推進】と【第5章.子ども・子育て支援事業計画】に区別はあるのか。

(事務局)

●【第4章.施策の推進】については、大きくいろんな事業をやっていくものだが、【第5章. 子ども・子育て支援事業計画】については、児童クラブや保育園の数を具体的に示すものであり、国にも正式に出すようなものになっているので、別にしている。現状では、子ども総合計画の別立てで子ども・子育て支援事業計画があり、2本立てとなっていたが、今回の改 定に合わせて、国の方も1本にしていいということだったので1本にする。

(委員)

●【第4章.施策の推進】と【第5章.子ども・子育て支援事業計画】に重複する部分はないのか。

(事務局)

●重なるところはあるが、施設の数などをより具体的に示すものが子ども・子育て支援事業 計画になる。

(委員)

●第2次計画では、子ども総合計画と子ども・子育て支援事業計画を合体するということか。

(事務局)

●はい。

(委員)

- ●子ども総合計画と子ども・子育て支援事業計画は、対象者が同じく「子ども」であり、中身的には同じなので、一本化した方が分かりやすい。
- ●第2次計画の【第5章.子ども・子育て支援事業計画】に書かれるものは、第1次計画に は載ってなかった部分ということか。

(事務局)

●はい。第1次計画には示していなかったが、別立ての計画として、第1次計画の中では子 ども総合計画の下位計画として今まで位置づけていた。

(委員)

- ●子ども総合計画と子ども・子育て支援事業計画を合体するのであれば、今までの子ども・子育て支援事業計画も見せていただくことが必要かと思うので、次回ぜひ確認させてください。
- ●【第4章.施策の推進】と【第5章.子ども・子育て支援事業計画】を分けるにあたって、 その辺のお考えをもう少し明確にしていただければいいのかと思った。
- ●子ども総合計画と子ども・子育て支援事業計画を合体する際に、「子ども・子育て支援事業計画」という名の章立てをしておかないといけないのか。

(事務局)

●おそらくそういう形になるかと思うが、今ご指摘いただいたところも含めて整理をして、 またご報告させていただきたいと思う。

(委員)

●【第3章.計画の基本的な考え方 2.目指す子どもの姿】について、最初は「目指すべき」となっていたので、それはやめてくださいと伝えて、「目指す」にしていただいた。しかし、「目指す」も気になる。子ども主体と言いながら、子ども主体になっていないような表現になっているので、この章立てはもう少し考えていただければと思った。

(事務局)

●「目指す」というのは大人の視点だと考えられてしまうところだが、そうではないので、 その言葉についてはまた考える。こういう表現がいいのではないかというご意見をいただ けると助かる。

(委員)

●【第2章.第1次計画の進捗評価 2.第1次計画の現状と課題】に「point」と書かれているところがあるが、課題のことを「point」と言っているのか、課題から抽出された目指すべきものを「point」と言っているのか。これはどういう意味で「point」と書かれているのか。

(事務局)

●こちらが考えている課題を「point」として抜き出した形になるので、この「point」を課題として、今後やっていかないといけないことだと考えている。

(委員)

●小中学生が集まる「居場所」では、子どもがいろんな意見を出してくれて、思いや悩みを話してくれる機会が多い。いろんな考えを持っている子どもがいて、悩んでいる子どももいっぱいいる。そんな意見を聞いて、こんなことをしてあげたらいいなとか、こうだよという意見を出せることがすごく楽しみであり、子どもに対していいことだと思っている。こんな場所を瀬戸市内で多く作ってもらいたい。

(委員)

●【第2章.第1次計画の進捗評価】の表を見て、「保護者から、たたかれたり、なぐられたりする」というところの%が高くなっていることにびっくりした。この数値には、「やや当てはまる」に○をつけた人と「あまり当てはまらない」に○をつけた人もたたかれたことがあるということで入っており、「とても当てはまる人」から「あまり当てはまらない人」ま

で、一色淡に全部この数値に入っているということなので、広めにとってあるということで はこのくらいあるのかとは思ったが、それでも増えているというところが気になる。

- ●児童福祉法の中に、親権者による体罰を禁止するというふうに書き込まれているので、子どもが小さいうちから啓発していく必要があるし、禁止するというだけではなく、その保護者にも温かく接して、保護者がストレスを抱えないような環境を作っていくということが大事になってくると思う。
- ●【第2章.第1次計画の進捗評価 2.第1次計画の現状と課題 2.社会的自立に困難を有する子ども・若者支援 (1)困難な状況に応じた取り組み】に「貧困と虐待に対応するための経済的・精神的支援の拡充」という課題が挙がっているが、虐待をしてしまった人に対する精神的支援だけではなく、そうならないように、予防的に、乳幼児のときから親子の接し方を一緒に考えていく必要があると思っている。なので、対症療法的な取り組みではなく、予防的な意味も含めて課題としていただければいいかと思っている。
- ●乳幼児期には、親子教室などいろんなことをやっているが、そこに来る人というのはより 積極的な人なので、そこになかなか足を運べないような人への支援やそういう人を包み込 むような施策により力を入れていく必要があるのかと思っている。そういったことも考慮 して、施策を考えていただければと思う。

(委員)

- ●【第2章.第1次計画の進捗評価 2.第1次計画の現状と課題】の「point」のところは分かりやすくまとめていただけたかと思う。
- ●自殺やいじめ、虐待等をなくすというところで、不登校のことも取り上げて、子どもの最善の利益を得るために、子どもの居場所作りなど、ハード面だけではなく、ソフト面でも一緒に考えていきたい。しかし、せっかく居場所があって、小学校中学校のうちは保護されていて、今は良くても、将来的には子どもが学校を出て、社会に出ていくことなど、そういった将来のことを考えると、もう少しこの辺をしっかりと対策を打っていかなければいけないかと考えている。
- ●子どもの成長を応援するために、屋内での体験活動はいろいろと展開されているが、外遊びをする機会が減っている。家庭の中で親御さんも含めて、忙しいのは分かるが、そういう体験が2の次3の次になって、太陽の下で伸び伸びと自由に遊ぶという機会が全くない。居場所を作っても、責任を持って指導していく担い手が全くいないという課題もある。地域一体となって、みんなで全ての子ども若者の健やかな成長を応援していきたい。

(委員)

●【第3章.計画の基本的な考え方 3.基本目標】に「困難な状況に対応する子ども・若者、その家庭への必要な支援」と書いてあり、これだけを聞くと、どうしても貧困や虐待にフォーカスされがちだが、現状、瀬戸市の一部で外国籍の子どもが多い地域があり、保護者がほ

とんど日本語を喋れないので、懇談や相談の際には学校側が慌てて通訳を探して、連絡を取り合うということもあるそうだ。その子どもは、学校に通っているうちに、母国語と日本語の両方を喋れるバイリンガルになっていき、学力的にも上位校に行ける学力を持っているが、国語ができないというところだけで進学の幅も狭められてしまっている。貧困家庭も多いことで私立の進学が見込めないとなると、【第3章.計画の基本的な考え方 3.基本目標施策の体系】の「外国にルーツのある子ども・若者とその家庭への支援」のところで、今後日本で暮らしていくと決めた外国籍の子どもの進学などの支援がもう少し広がるといいのかと思っている。こんなに素晴らしい計画があっても、多分その外国籍のご家庭の方は内容も分からなければ、支援があるということも知らないと思うので、ぜひそういった外国籍の家庭にも瀬戸市はこういう支援をやっているのだということが伝わるようになるといいかと思っている。

●居場所作りの件で、小中学校に「せと"ここ"ほっとルーム」ができあがり、そこに行くことで学校に行くことができているという子どもが増えてきたということは聞いている。しかし、小中学校まではその居場所があるが、高校に行ったらどうなのかというところが出てきていて、高校も通信制が増えていて、一旦は進学するが、途中で高校を辞めてしまったり、通信制の高校は出たけど、その後働くのか進学するのかでつまずいてしまう子どももいるということなので、小中学校や「せと"ここ"ほっとルーム」を出た後の子どもの支援の場所が広がるといいのかと感じている。

(委員)

- ●瀬戸市で小中学校に居場所ができているというところは画期的なことだと思うが、そこからの自立の支援が、もう少し戦略的に、しっかりと子どもがエンパワーメントされていくような場作りが大事で、これからの課題かと思う。
- ●いろいろなところからご意見をいただいている中で、子育てに関する部署とどこが連携しないとそれができないのかということが明確に出てきていると思う。なので、庁舎内や地域、その他連携していくべき場所のことも明記しておく方が良いのかと思った。学校教育や保育園幼稚園との連携は欠かせないと思うし、そのあたりの連携について記載することが必要かと感じた。

(委員)

●中学校に1日も行けなかったが、通信制の高校が非常にあり、スクーリングも週1回であれば気軽に行けて、単位が取れて、自信がついて、大学に進学したという子どももいたりするなど、今は多様な選択肢が増えている。大人たちは「○○しないといけない」と子どもに語りかけてしまい、子どもがトンネルの先に光がないような状況に早い段階で置かれてしまう。しかし、そんなことは全然なく、大人たちが知っているよりもはるかに広い選択肢と世界が待っているので、大人たちがいかにちゃんと情報を正しく集めて、正しく選択肢を提

示できるかだと思う。なので、他との連携がうまくいくといいと思っている。心配な人は小児科外来や子どものこころセンターでフォローアップすればいいのだろうが、必ずしも医療との関わりの中でなくても、幼稚園の先生や学童クラブの支援員、放課後デイサービスの支援員など、家庭以外で信頼できる大人と出会い、随伴性マネジメントとして、寄り添いながら子どもがいい芽を出したときには、背中を押すような形でエンパワーメントしていくと、子どもがエネルギーを取り戻していくということがはっきりしている。それを地域社会全体でやっていき、就学支援と就労支援に繋げる。そういった療育機関やサポート施設がたくさんある。必要な情報に接していけるように手を差し伸べていくというアウトリーチが重要かと思う。

(委員)

●伴走型支援として、子どもを真ん中に置きながら、大人がどんなふうにサポートしていく のか、子育ての方法を模索していかなければいけない。

(委員)

●計画のスタートが母子保健から始まっているかと思うが、母子保健だと妊娠出産というところからのスタートのイメージであり、この妊娠出産が健やかに行くためには健やかな母性が育っていないとそこには繋がっていかない。望まない妊娠というところがいろんな問題に繋がってきたりすることがあり、最近では小学校などで命の授業をやっている状況なのかとは思うが、きちんとした母性が育って、人と人との距離を保ちながら必要なときには嫌だと言えたり、生きる力というところの教育が大事だと思っている。そういった視点で、【第2章.第1次計画の進捗評価 2.第1次計画の現状と課題】の「point」やその下の文章を変えていただけるといいのかと思う。性の問題や望まない妊娠というところは避けて通りがちだが、スタートがそこにある気がするので、そうならないように、子どもの生きる力をつけてあげるという視点も必要ではないかと思う。

(委員)

●【第2章.第1次計画の進捗評価 2.第1次計画の現状と課題 1.すべての子ども・若者の健やかな成長 (4)すべての子ども・若者の健やかな成長の応援】に「~「子どもを産み育てる自信がない」と考えている若者がいたことから~」と書いてあるが、進捗評価の表にはその数値が出ていない。

(事務局)

●進捗評価の表には数値が上がっておらず、数値目標として掲げていない部分にはなるが、 アンケート結果の詳細の中では読み取れるものになっている。

(委員)

●アンケート結果は、第2次計画の骨子案を見る人が手に取れる形でどこかに示されているのか。表を作る必要はないと思うが、せめて何%あったということは示してほしい。

(事務局)

●第2次計画の骨子案の中にはアンケート結果の記載がないので、数値や表現を変えて、この計画を見ただけで、ちゃんとリンクして分かるようにさせていただければと考えている。

委員より、「虐待の有無と思春期の心理状態との関連について」の資料について 説明

(委員)

●子どもは相当たたかれたりしないと、「たたかれている」と答えない。児童相談所が迎えに来ても、「たたかれていません」と言う子どもの方が多いので、そういうアンケート結果にもなるかと思う。「あまり当てはまらない」と書いている子どもは、勇気を振り絞って書いたのかもしれない。

(委員)

●貴重な資料だと思う。何かのときに示しながら、訴えることができる。

(委員)

●親に虐待の指導をするときは、今法律で変わっているということを言うと半分以上の親は納得する。虐待経験があると脳の容積が小さくなるということを示すと、親御さんもそこに一番関心をひく。子どもが小さいときから虐待をずっと続けていると、自己評価は当然落ちるし、元気もなくなる。

(委員)

●実は今、教育虐待がすごく問題になっており、教育虐待がものすごく影響を及ぼすということも研究がなされている。教育虐待とは、塾に行かないと怒鳴りつけるとか、一晩中勉強させるとか、点数が悪かったらずっとごめんなさいと書かせるとかいろいろある。受験産業が盛んになる中で、幼稚園や小学校の入学あたりから、教育虐待が増えていく。実際には、身体的虐待よりももっと反応が出るという調査も出ているようなところなので、その辺はアンケートを取っていないが、どういうふうにそれをこの計画の中に生かしていくかということは重要なことだと思った。

(委員)

●どういう人がたたいているのか疑問に思ったところだ。貧困が大変で手が出ているのか、 教育虐待的なところでの行為なのか。親へのアンケートにある「たたいているか」と「高校 進学等のお金の問題」という辺りの数値データを掛け合わせることによって何か分かるか というところで、またやっていただきたいと思う。

(委員)

- ●教育虐待が最近愛知県でも出てきている。今後は一つの大きな課題になるか。どういう親が叩くかというのは、いろんなタイプがあるが、比較的共通するのは、「自分もたたかれて育ってまともになった」や「いくら口で言っても言うことを聞かないから痛みで教えないといけない」という信念を持っている人がいると感じる。
- ●今は子育ての技術や子育ての知識などのいろんな情報が氾濫しており、いろんな考え方があるとは思うのだが、暴力に頼らない子育ての仕方が情報としてある。一般的な子育ての知識が少ないような人が最終的に暴力に頼ってしまうという傾向がある。
- ●何十年も前から貧困と虐待というのは密接な関係がある。例えば、一つの虐待事例について、何が一番の原因か聞くと、経済的貧困ということは上がってきにくいが、一つの事案についてリスク要因をいくつも挙げてくださいというと、6割ぐらいのケースに経済的貧困というのが出てくる。

(委員)

●どういう親がたたいているのかというところの解釈は難しいし、多様なバックグラウンドがあるのだろうと思っている。虐待というのは、家庭など人の目が届かないところで起こりやすくて、習慣化しやすく、漸増し、だんだん大きくなるので、人の目に触れ、耳に触れて通告に至り、やがては大きな怪我に至る。骨折や火傷、重度の後遺症が残るレベルに至るまで漸増していて、発覚に至るような形なので、いかに家庭に入るかということの施策がとられていると思う。なので、妊娠期からお母さんのメンタルヘルスについてサポートするということだと思う。しかし、叩くお母さんというのは少なくなく、たくさんいると思う。そういったお母さんは愛情たっぷりに子どもを一生懸命育てており、たたいたとしても、遥かにもっとたくさんの愛情を注がれていたりすると、その子どもは「あまりそう思わない」にするかもしれないし、「どちらかというとそう思う」にするかもしれない。なので、受け止め方というのは慎重であるべきだ。ただ、子どもがどう思うかというところがポイントかと思う。「あまりそう思わない」という子どもの中には、たたかれたかもしれないが、お父さんお母さんがすごく愛情を持って育ててくれたという自己肯定感たっぷりな子どもも入っていると思う。アンガーマネジメントをみんなでやっていかなくてはいけないかということで、親御さんの支援が大事だと思うところである。

(委員)

●社会全体の捉え方というのは大事で、子どもが外で遊んでいるだけでうるさいと怒鳴られて、公園を閉じてしまうような地域もあるわけだ。そうではない社会を作ろうというのが第1次計画でもあったと思う。なので、子育てを社会全体でどんなふうに背負っていくのか、方向性を持って、基本理念にしっかりと書き込んでいかないといけないと思った。

(委員)

- ●虐待予防という観点や視点はどこかに入れてほしいと思う。この見出しを見ると、虐待を受けた子どもや貧困の子どもに対する経済的精神的支援というのがあり、これはそういう状況に陥った子どもに対する支援かと読めてしまうが、虐待そのものを減らすことが一番いいわけだ。
- ●虐待行為が何かというのはあまり浸透してない。特に面前DVが虐待だというのは、過半数の親御さんが認識していないし、暴力に関しても、頭ではなくてお尻だったらいいという親御さんの8割ぐらいは虐待ではないと言っていたりするので、こういうことやると虐待になるのだということを対策として広めてほしい。それが何より虐待を減らすことに繋がるかと思うので、どこかの見出しで虐待行為に対する啓発を入れてもらえるとありがたい。

(委員)

- ●第1次計画の進捗状況から項目ごとにポイントを挙げていただいた上で、総括的なまとめを作っていただくと、妊娠期から18歳に至るまでを通して見ることができて、年代を超えたところでの課題を書き込めるのではないかと思った。
- ●このデータを使うかどうかというのは、件数的に少ないので、行政的には微妙なところではないかと思うが、日本も含めて世界的には、これらの研究がたくさんされており、その研究結果とはマッチしている。私が先行研究した中では全てこういう傾向が出ているので、それらの研究とあわせて見たときに、瀬戸市の中では限られた人数しか答えていないけどそういう傾向はあるというところで、施策を打っていくというのは重要で、もっと小さいときからの支援や予防というのが重要なところに繋がると思う。

(委員)

●小学校中学校高校くらいまでは居場所や施設があるけど、その先で、就労就業ということに事業所が関わってくると思っている。どんな立場の人でもそうだが、住むところと仕事があって、仕事による所得があれば、生活は徐々に安定していくと思う。なので、就業の場を提供するということが事業所の使命ではあるが、課題に対して、事業所としてできることは何だろうと思っているところである。

(委員)

●【第2章.第1次計画の進捗評価 2.第1次計画の現状と課題 1.すべての子ども・若者

の健やかな成長 2.乳幼児期】について、特に最近は保護者のニーズが多様化していると思う。お母さん1人で育児している人もいるし、お父さんが育休を取って、お父さんもいたり、双方のおじいちゃんおばあちゃんもいたり、賑やかに子育てしている人もいる。初めての育児だと悩みもあると思うが、ほとんどネットで検索されて、自分で答えを出して終わっている人が多い。それで納得されて、ご自身で模索しながら育児している。その中でも、地域に繋がりを持ちたいというお母さんもいるので、その方にはしっかりと地域のサロンや市の施設をご提供していて、なるべくお母さんのご希望に沿うような支援が大事だと思っている。

●保育園が低年齢化していて、なるべくならば1歳前後でいいので、早く保育園に入れたいというお母さんの声をよく聞いている。ニーズ的に、なるべく早く育休を終えて社会復帰したいというお母さんが多い。今はただでさえ保育士が少ないと思うので大変だとは思うが、多分ニーズはたくさんあると思うので、一時保育や1歳児2歳児の保育など、保護者のニーズに対応した保育園のサービスを拡充していただきたいと思う。

(委員)

- ●【第2章.第1次計画の進捗評価 2.第1次計画の現状と課題 1.すべての子ども・若者の健やかな成長 (2)乳幼児期】に「〜母親の就労が増えているため、地域の子育でサロンや育児サークルの活動への参加減少等から、母親の孤独感・孤立感につながる場合もあり、〜家庭の力が弱まっています。」と書いてあるが、就労している母親が悪いのかという見方になる。確かに地域の子育でサロンなどの利用が少なくなると、孤立感につながるというところもあるだろうが、私の中では違和感がある。
- ●【第2章.第1次計画の進捗評価 2.第1次計画の現状と課題 1.すべての子ども・若者の健やかな成長 (2)乳幼児期】に「~母親が少し話したら気が楽になるような居場所づくり等を進める必要があります。」と書いてあるが、違和感がある。地域に関わりを持ちたい人もいるが、ネットなどで相談をしたい人もいる。SNSなら相談したいが、地域のコミュニティにわざわざ入っていきたい人ばかりではないので、居場所作りを進める必要があるのか。今のお母さん世代がどの辺を求めているのだろうか。居場所を作ったら行くのだろうかどうなのだろうと思った。
- ●就労について、18歳ぐらいまでは、学校の先生などが手厚く支援してくれるが、そこから、例えば、グレーゾーンの子どもが専門学校・大卒の20歳前後になった時に、どこに行っていいのか分からなくなってしまったり、どうしていいのか分からなくなって、引きこもることが出てきている。そういうことを考えると、そういった若者を継続して支援ができるようなものがあるとありがたいと感じた。

(委員)

●子ども若者がどうやって自立をしていくのかというところに重要なポイントがあると思

った。

●保護者のニーズの変化を悪いこととして捉えず、現代社会にあるニーズの中からどのように施策を打っていくのか。もしかしたら子育て支援の変化も求められているかと思った。

(委員)

- ●これから先を見据えた事業計画であれば、性虐待や性被害の防止のことも入れていただきたいと思った。これからだんだん子どもが表出機会を得て、言える子どもが出てくる可能性のある時代に入ってきたと思っている。子どもが今、自分がされたことを性被害だと気付くのは10年後20年後30年後になるかもしれない。そのことを市としてちゃんと取り組んでいくのだという視点を盛り込むためにも、この文言を入れていただきたい。文言で「虐待」と記載されている部分があるが、意味が広すぎて、明確でない。
- ●余裕のなさの延長で、つい日常的に愛情たっぷりにたたいているお母さんたちのことも 頭に置きながら、「マルトリートメント」「不適切養育」という言い方も混ぜるといいかと思 った。

(委員)

●「マルトリートメント」まで入れると、家族だけではない、「不適切養育」というところ も入るので、社会に対してのインパクトもあるかと思う。

(委員)

●前回も提案をさせていただいたが、経験や体験をされた親と専門家を交えながら実務者会議も進めていけたらいいかということで提案させていただく。専門家の皆さんで打ち合わせをしたり、アンケートをとって、調査して、計画を作ることも大事なことだとは思うが、自殺、不登校、いじめなどのいろいろな課題も抱えながら計画が進んでいく。その中で、こういう場所では言えない意見もたくさんあると思う。

< 3. 報告事項>

事務局より、各課(公所)事業の進捗状況について説明

<4. その他>

事務局より、今後のスケジュールについて説明

(委員)

●【第2章.第1次計画の進捗評価】で、「×」がついたところを中心にやるというのは今後の改善を図るということだろうが、逆に「○」がついたところや良くなったところなど、瀬戸市はこんなことやったからここはすごく成果が上がったみたいなアピールする部分があ

ってもいいのかというのは思った。

(委員)

- ●第1次計画のときに答申したものは全てやっていただいている。それは瀬戸市のすごい力だと思うので、そのあたりを見える化していただけると、「計画に書かれたことは実行できるのだ」「みんなで意見を持ち寄れば良くなるのだ」という経験にもなるかと思う。特に、この第1次計画からスタートして、子どもが主役となり頑張っている「子どもの権利の活動」についてもどこかでご紹介できればとは考えた。
- ●子どもの権利の活動や権利擁護の話など、また次回委員の皆さんにお知らせいただけた らと思った。

会議終了